



杉村楚人冠旧蔵の短刀を 1 月 10 日から初公開

杉村楚人冠旧蔵の短刀二本を杉村楚人冠記念館の展示で初めて公開します。展示概要は以下のとおりです。

展示名称 : テーマ展示「楚人冠の刀剣鑑賞」

展示期間 : 平成 30 年 1 月 10 日 (水) ~ 平成 30 年 3 月 4 日 (日)

入館料、開館時間、休館日は通常どおりです。

入館料 : 一般 300 円 / 高校・大学生 200 円 中学生以下無料

※3 館共通券 (一般 600 円 / 高校・大学生 400 円) 使用可

開館時間 : 午前 9 時 ~ 午後 4 時 30 分 (入館午後 4 時まで)

休館日 : 月曜日 (2 月 12 日は振替休日のため開館、翌 13 日休館)

杉村楚人冠は刀剣鑑賞を趣味とし、刀剣鑑定家本阿弥光遜から刀剣鑑定中伝免状を授けられていました。その楚人冠が所有していた短刀二本を初めて展示します。

一本は南北朝時代の刀匠、有法師 (ありほうし) の作品です。有法師は大和伝当麻系 (奈良県の当麻寺に縁のある刀匠たちの一門) の刀匠です。短刀ながら厚みがあり、棟 (刀の背) の側が先端で若干刃の方に傾く筈反 (たけのこぞり) という短刀ならではの形状を示します。

もう一本は江戸時代 (寛政から文政ごろ) の刀匠、見龍子永茂 (けんりゅうしながしげ) の作品です。仙台藩お抱えの刀匠 8 家の一つ永重一門の 9 代目で号を見龍子と称しました。有法師の短刀とは対照的に刀身が棟側に傾く先反 (さきぞり) の形状をしています。

今回の展示は、楚人冠の師である本阿弥光遜の著書から刀剣鑑賞の基礎知識を紹介し、また楚人冠が鑑定の学習に用いたメモと刀身の複写の展示のあとに、この二本の短刀を鑑賞、相違点を解説する構成とすることで、来館者の皆様も刀剣鑑定的一端を体験することができるものとなっています。

【問い合わせ】

我孫子市生涯学習部文化・スポーツ課
杉村楚人冠記念館 担当 高木



04-7187-1131 (内61-802)

(参考資料) 展示する短刀二本の銘



「仙臺住見龍子永茂」



「アリハウシ」